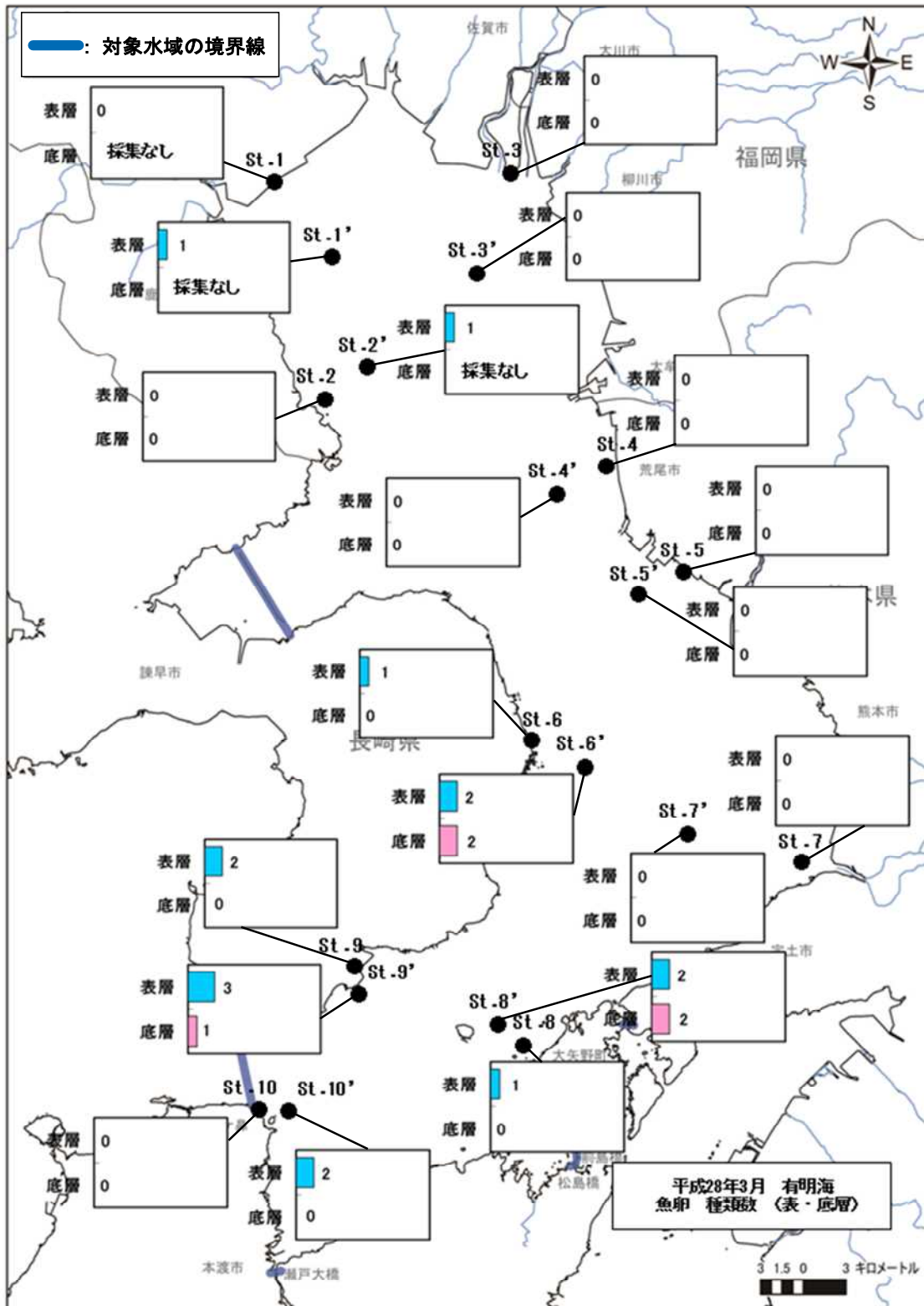


表7 主要魚介類の産卵場及び生育場について

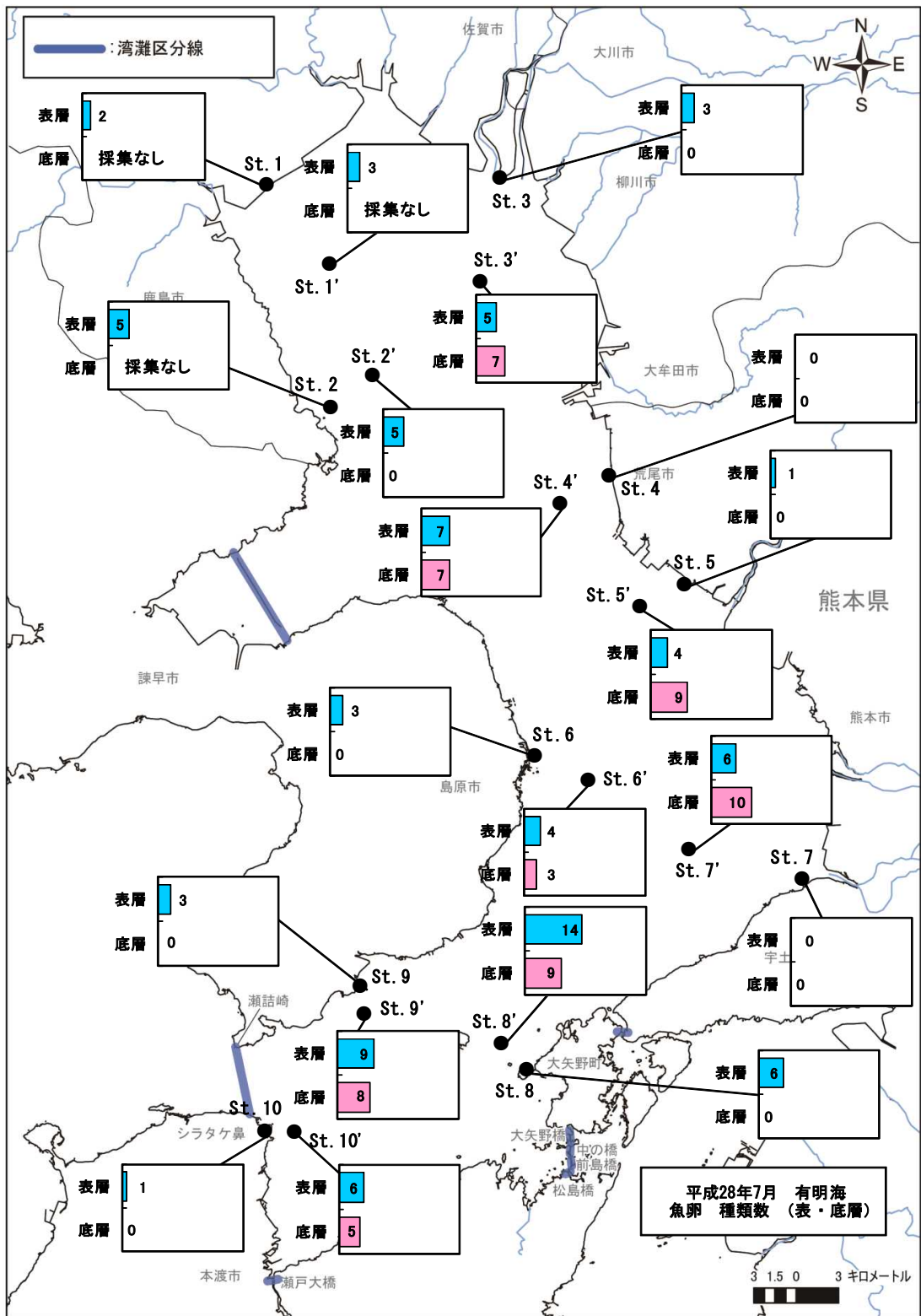
主要魚種名	現地調査結果等のまとめ
スズキ	<p>卵は採集されなかった。稚仔魚は夏季に St. 7 (住吉地先) で、冬季は St. 1 (鹿島地区)、St. 2 (太良地区)、St. 10 (長崎鼻地先) の潮間帯域で採集された。</p> <p>既存資料や漁場分布から産卵場としては水深の深い湾口部や湾央部、生育場は湾奥部、湾央部東側の浅場や湾口部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
ムツゴロウ	<p>卵は採集されなかった。稚仔魚は夏季に St. 1 (鹿島地先)、St. 3 (筑後川河口地先)、St. 4 (荒尾地先)、St. 7 (住吉地先) で採集された。</p> <p>既存資料や漁場分布から産卵場・生育場としては湾奥部、湾央部東側の干潟域を利用している可能性が高いと推定した。</p>
ヒラメ	<p>卵、稚仔魚は採集されなかった。既存資料や漁場分布から産卵場としては水深の深い湾口部や湾央部、生育場については湾全域の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
イヌノシタ	<p>卵、稚仔魚は採集されなかった。既存資料や漁場分布から産卵場・生育場としては湾奥部及び湾央部を利用している可能性が高いと推定した。</p>
コウライアカシタビラメ	<p>卵は採集されなかった。稚仔魚は冬季に St. 6' (南島原地先) の水深 10m 層で採集され、夏季は St. 3 (筑後川河口地先) で採集された。</p> <p>既存資料や漁場分布から産卵場としては水深の深い湾央部、生育場は湾奥部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
アカシタビラメ	<p>卵、稚仔魚は採集されなかった。</p> <p>既存資料や漁場分布から産卵場としては水深の深い湾央部、生育場としては湾奥部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
マコガレイ	<p>卵は採集されなかった。稚仔魚は冬季に St. 6 (南島原地先) の潮間帯域に形成されたアマモ場周辺で採集された。</p> <p>既存資料や漁場分布から産卵場としては水深の深い湾央部、生育場は湾奥部や湾央部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
ホシガレイ	<p>卵、稚仔魚は採集されなかった。既存資料や漁場分布から産卵場としては水深の深い湾央部、生育場は湾奥部や湾央部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
マダイ	<p>卵、稚仔魚は採集されなかった。既存資料や漁場分布から産卵場としては水深の深い湾口部及び湾央部、生育場としては湾央部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>

主要魚種名	現地調査結果等のまとめ
クロダイ	<p>卵は採集されなかった。稚仔魚は夏季に St. 2(太良地先)、St. 6 (南島原地先) で採集された。</p> <p>既存資料や漁場分布から産卵場としては水深の深い湾口部及び湾中央部、生育場としては湾中央部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
クルマエビ	<p>卵は採集されなかった。稚エビは冬季に St. 5 (岱明地先) と St. 10 (長崎鼻地先) の潮間帯域で採集され、夏季において稚エビは St. 3 (筑後川河口地先)、St. 4(荒尾地先)、St. 5(岱明地先)、St. 7(住吉地先)、St. 8 (野釜島地先) と St. 10 (長崎鼻地先) の干潟域で採集された。クルマエビ科のポストラバは St. 8 (野釜島地先)、St. 10 (長崎鼻地先)、St. 10' (長崎鼻地先) で採集された。</p> <p>既存資料や漁場分布から、産卵場は水深の深い湾口部、生育場は湾奥部から湾中央部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
ガザミ	<p>卵は採集されなかった。稚仔魚は夏季にガザミ属のメガロoppaが St. 10' (長崎鼻地先) の沖合域で採集された。</p> <p>既存資料や漁場分布から産卵場・生育場としては、湾中央部及び湾奥部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
アサリ	<p>卵は採集されなかった。稚貝は冬季に St. 4 (荒尾地先)、St. 5 (岱明地先)、St. 9 (南有馬地先)、St. 10 (長崎鼻地先) の 4 地点で採集され、夏季は St. 4 (荒尾地先)、St. 5 (岱明地先)、St. 6 (南島原地先)、St. 7 (住吉地先)、St. 9 (南有馬地先) で採集された。</p> <p>既存資料や漁場分布から産卵場・生育場は湾中央部及び湾奥部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
サルボウ	<p>卵は採集されなかった。稚貝は冬季は St. 5 (岱明地先) の干潟域で、夏季は St. 5 (岱明地先)、St. 7 (住吉地先) で採集された。</p> <p>その生育場は干潟から水深 7m までの軟泥域となっている (表 2. 1-2 参照)。</p> <p>既存資料や漁場分布から産卵場・生育場は湾中央部及び湾奥部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
ハマグリ	<p>卵は採集されなかった。稚貝は夏季及び冬季で St. 7 (住吉地先) の干潟域で採集された。</p> <p>既存資料や漁場分布から、産卵場は熊本県沿岸の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
タイラギ	<p>卵及び稚貝は確認されなかった。既存資料や漁場分布から産卵場・生育場は湾奥部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
マテガイ	<p>卵は確認されなかった。稚貝は夏季に St. 5 (岱明地先)、St. 6 (南島原地先)、St. 10 (長崎鼻地先) の干潟域で採集された。</p> <p>既存資料から産卵場・生育場は湾中央部及び湾奥部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。</p>
アゲマキガイ	<p>卵及び稚貝は確認されなかった。既存資料から産卵場・生育場としては、湾奥部の干潟域を利用している可能性が高いと推定した。</p>



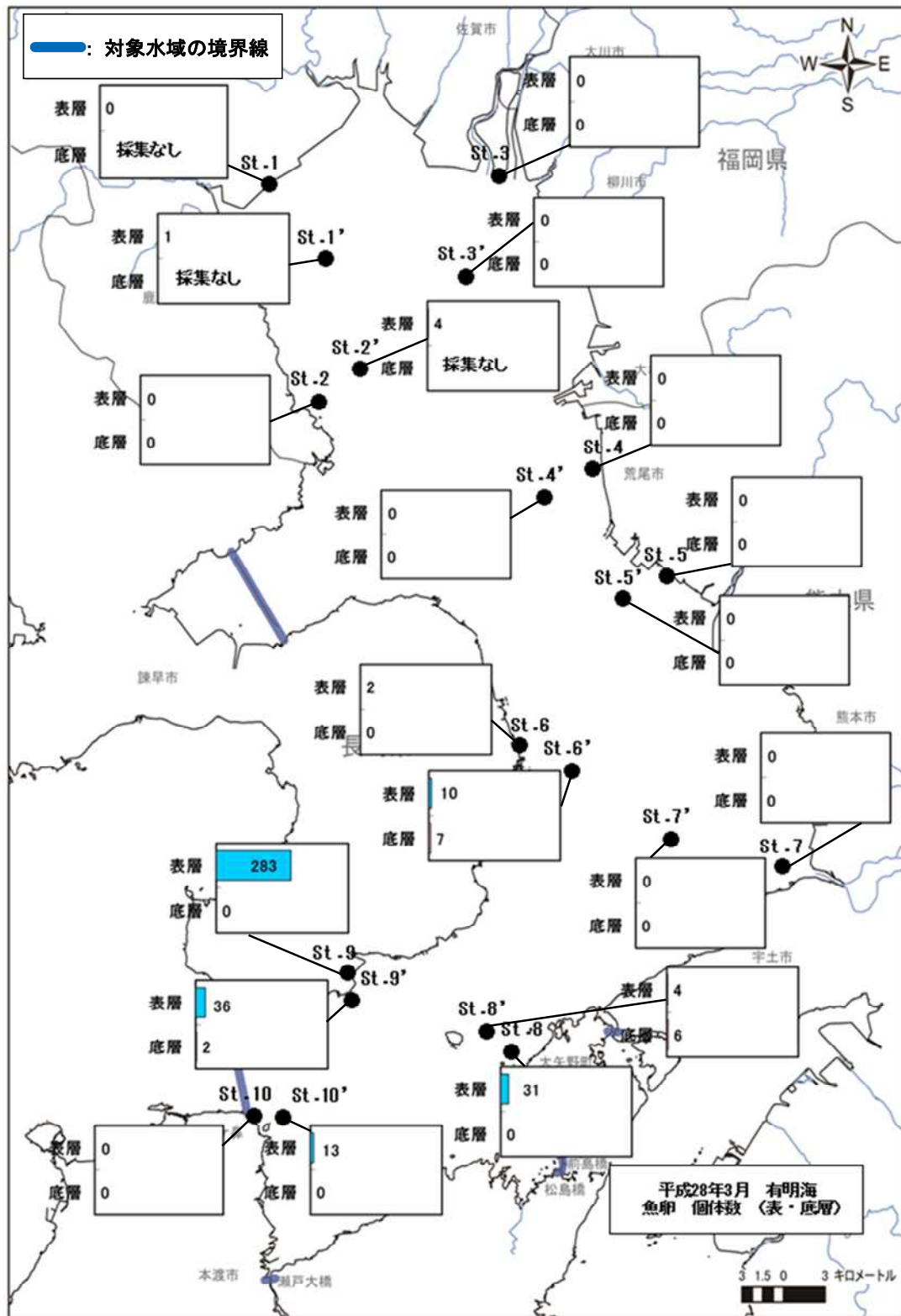
注)「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(1) 魚卵種数の出現状況 (冬季)



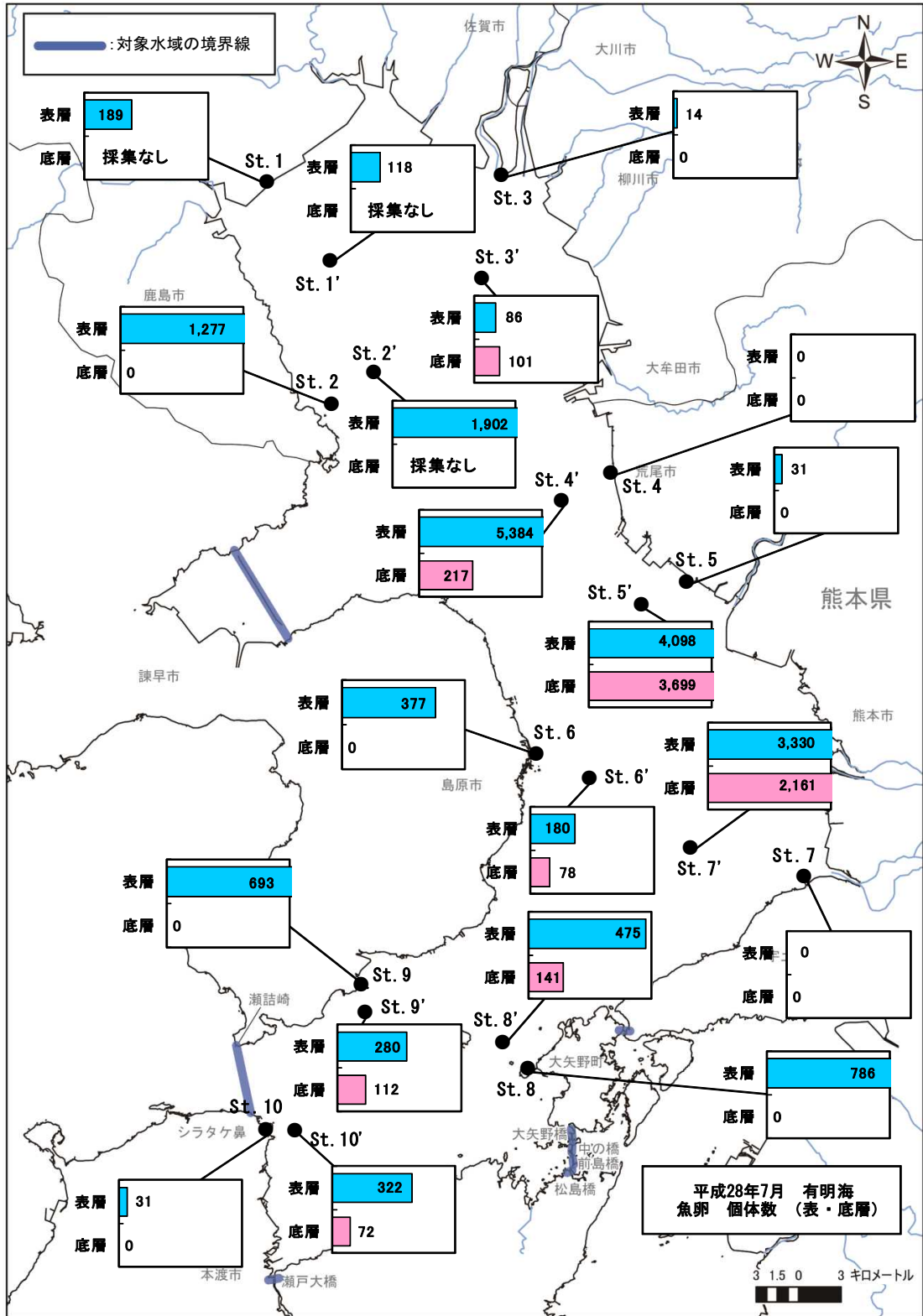
注)「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(2) 魚卵種数の出現状況 (夏季)



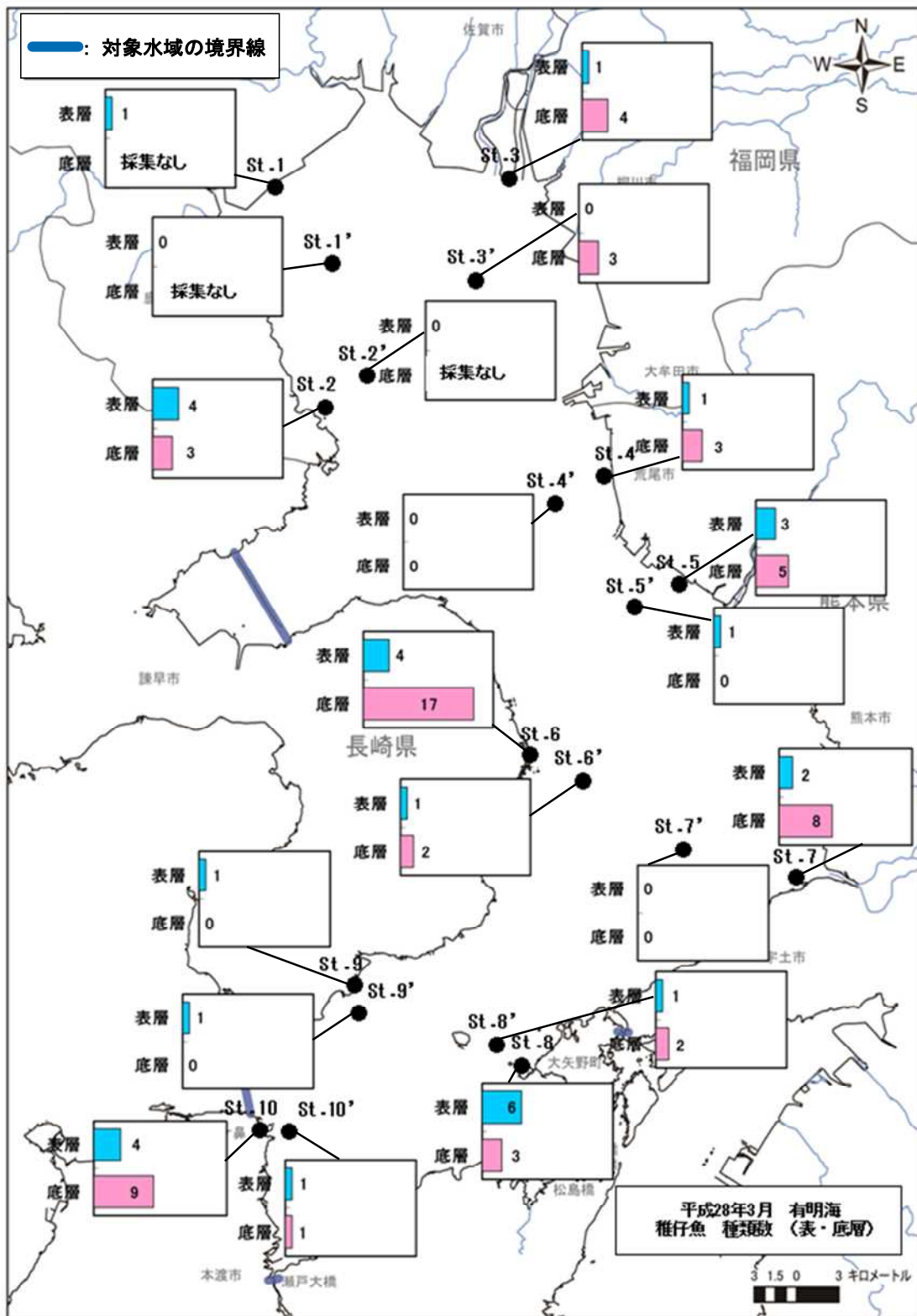
注)「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(3) 魚卵個体数の出現状況 (冬季 個体数/1,000 m³)



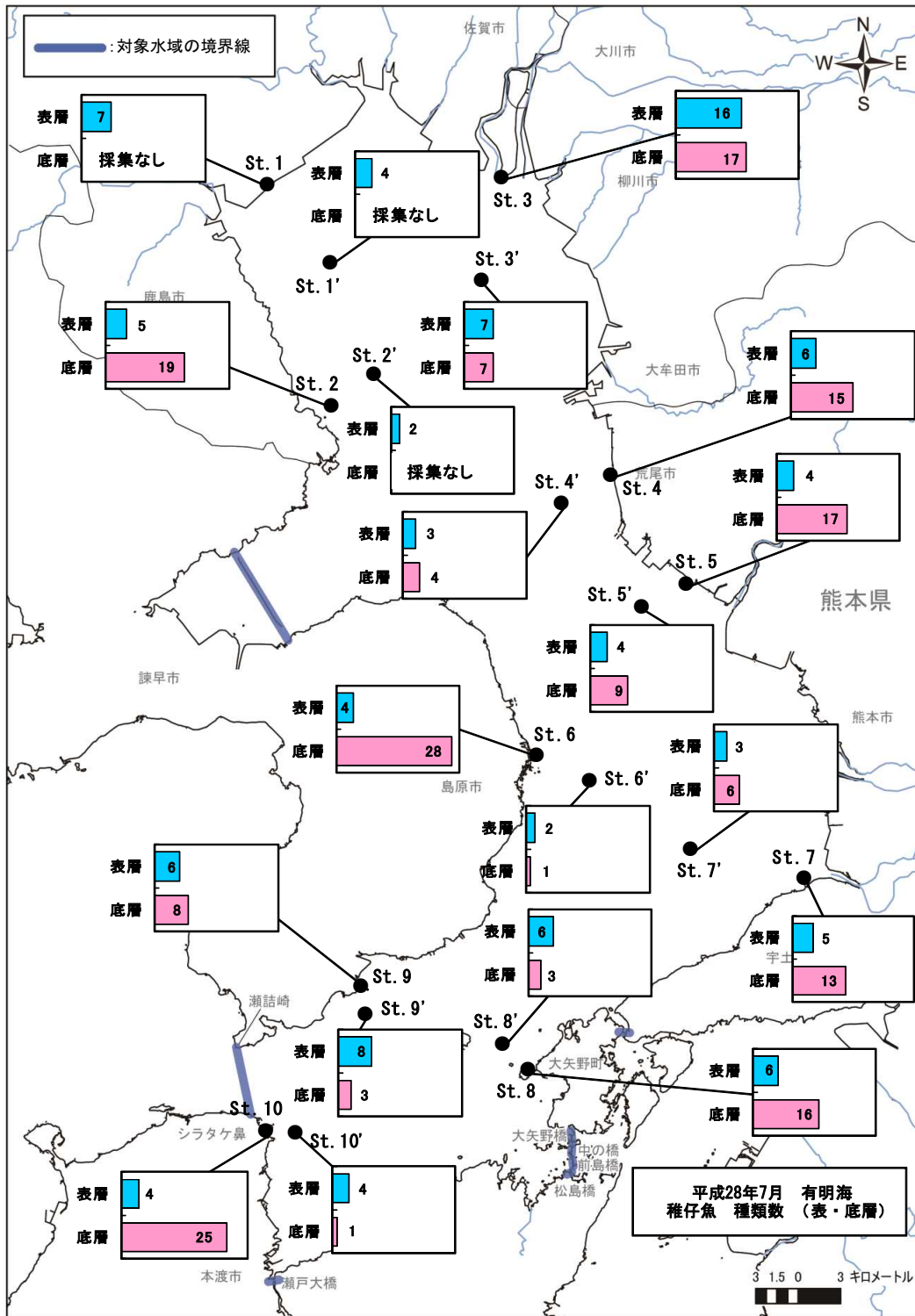
注)「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(4) 魚卵個体数の出現状況 (夏季 個体数/1,000 m³)



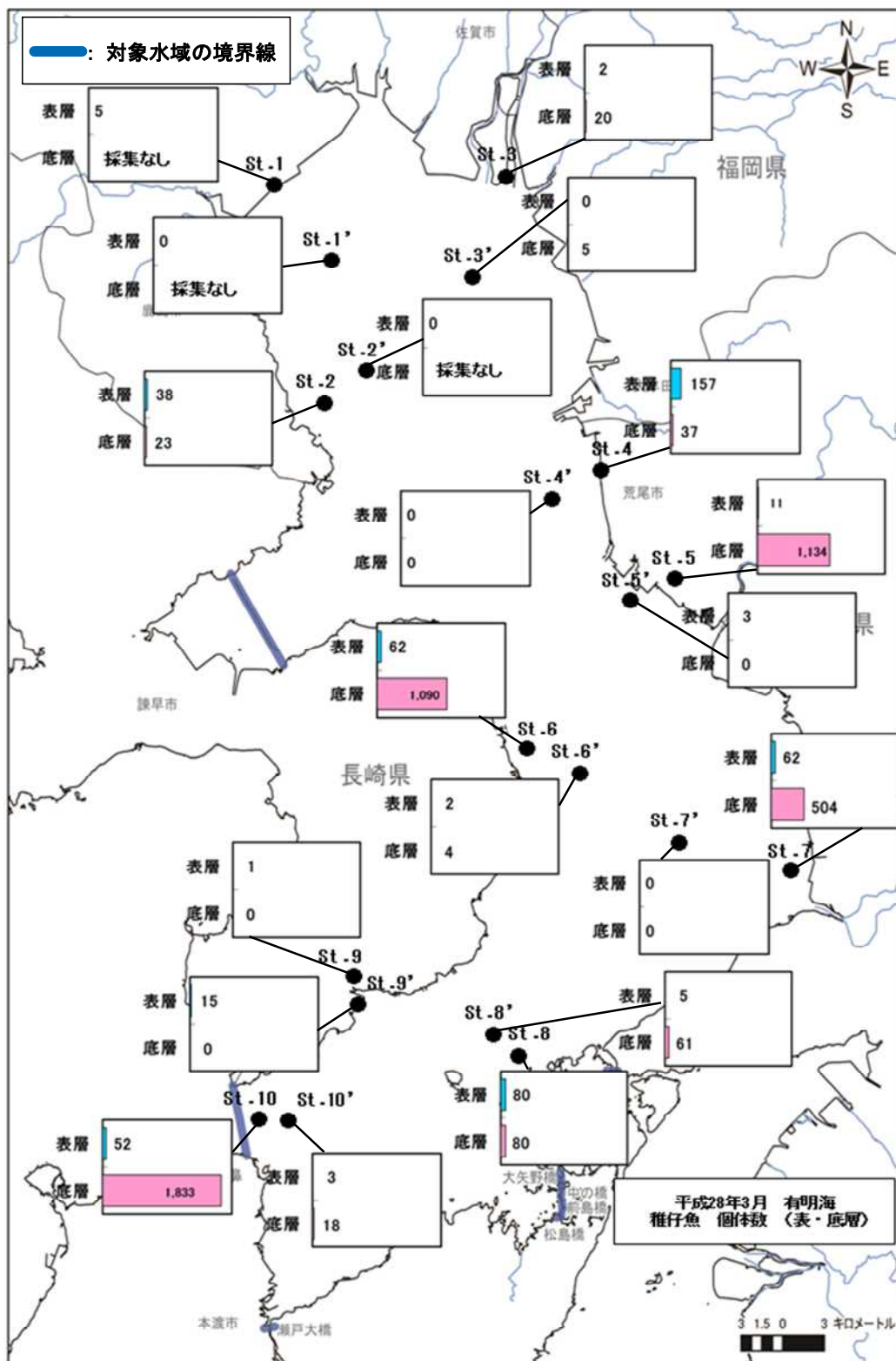
注) 「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(5) 稚仔魚種数の出現状況 (冬季)



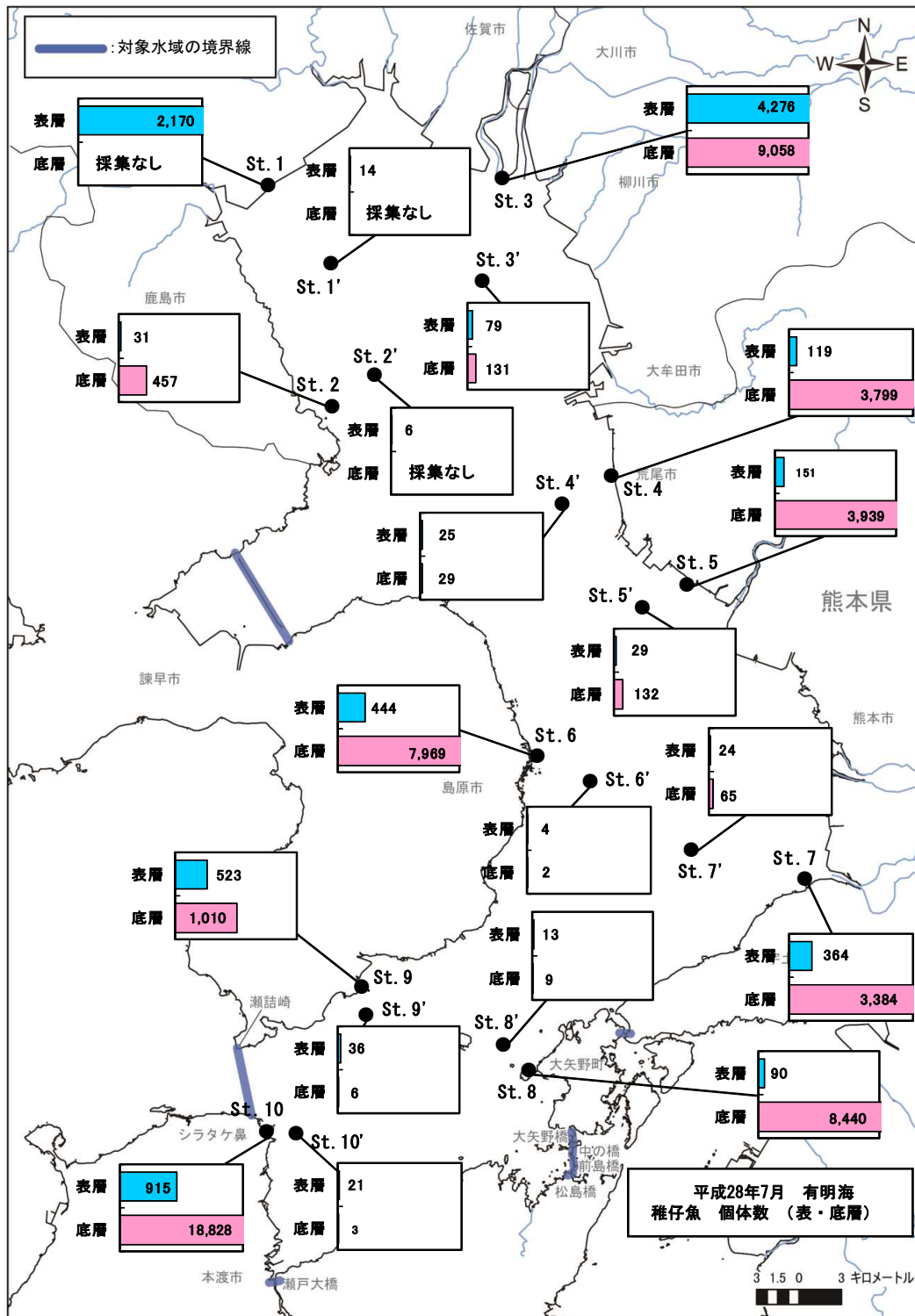
注)「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(6) 稚仔魚種数の出現状況 (夏季)



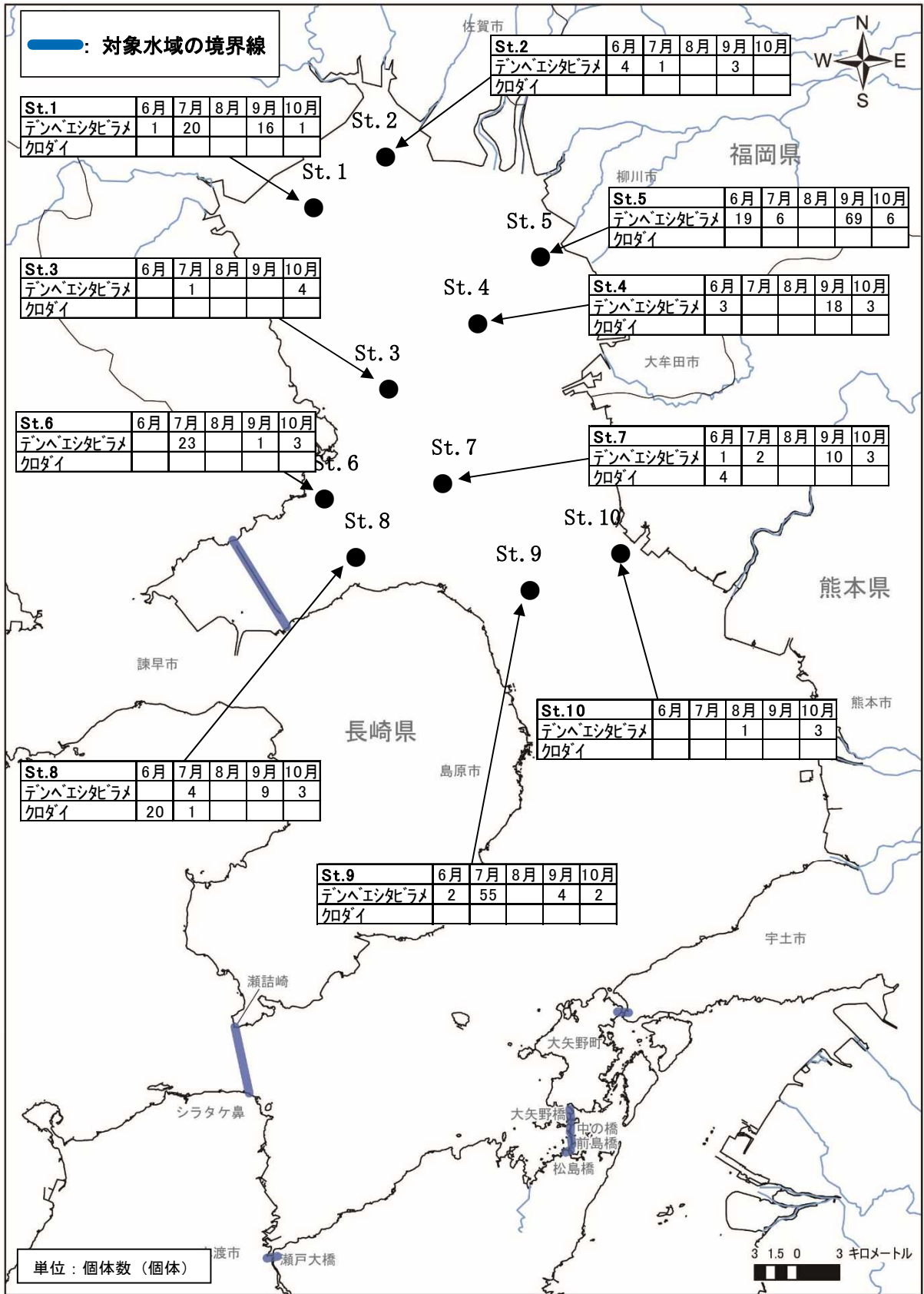
注) 「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(7) 稚仔魚個体数の出現状況 (冬季 個体数/1,000 m³)



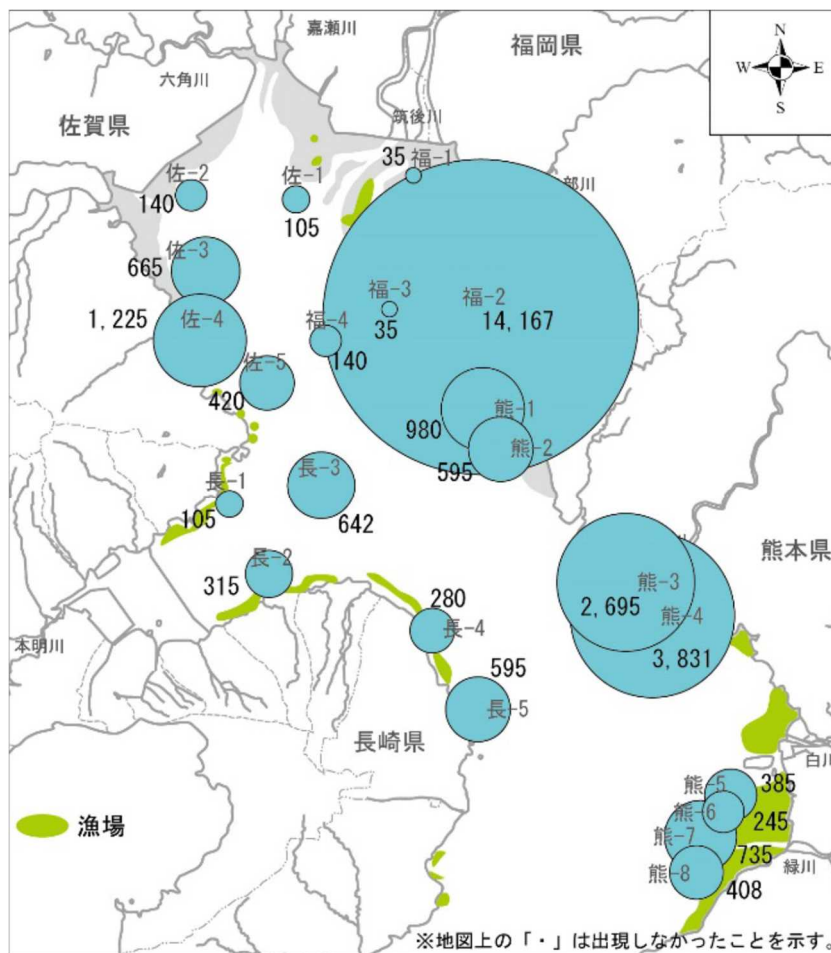
注)「採集なし」は、採集を実施していないことを示す。

図 12(8) 稚仔魚個体数の出現状況 (夏季 個体数/1,000 m³)



出典：環境省（有明海の環境変化が魚類の卵・仔魚の輸送と生残に及ぼす影響の評価調査業務平成21年度報告書）より作成

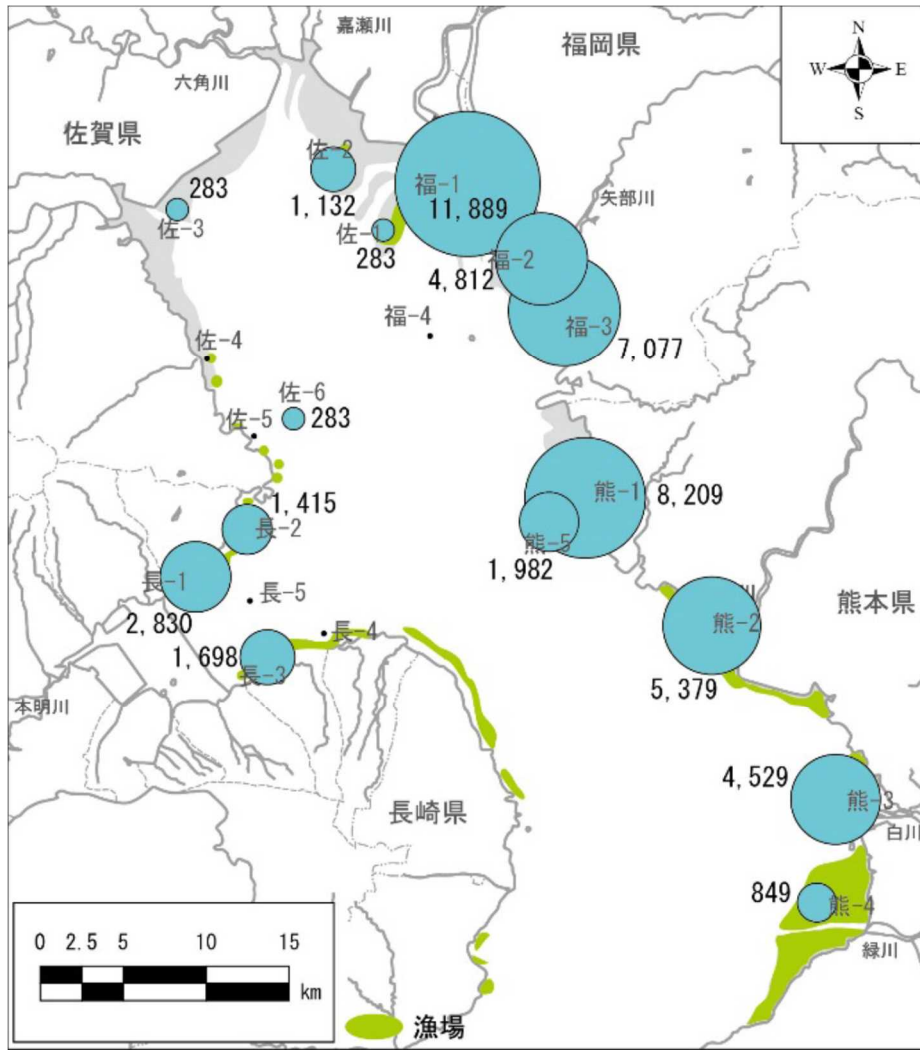
図 14 有明海における仔魚の分布（2007年）



注) 図中に表示している数値は、調査期間中（2015年9～11月）に確認された浮遊幼生の総個体数（個体数/m³）を示す。

図 15 アサリ D 型幼生の分布状況（2015 年 9～11 月の累計）

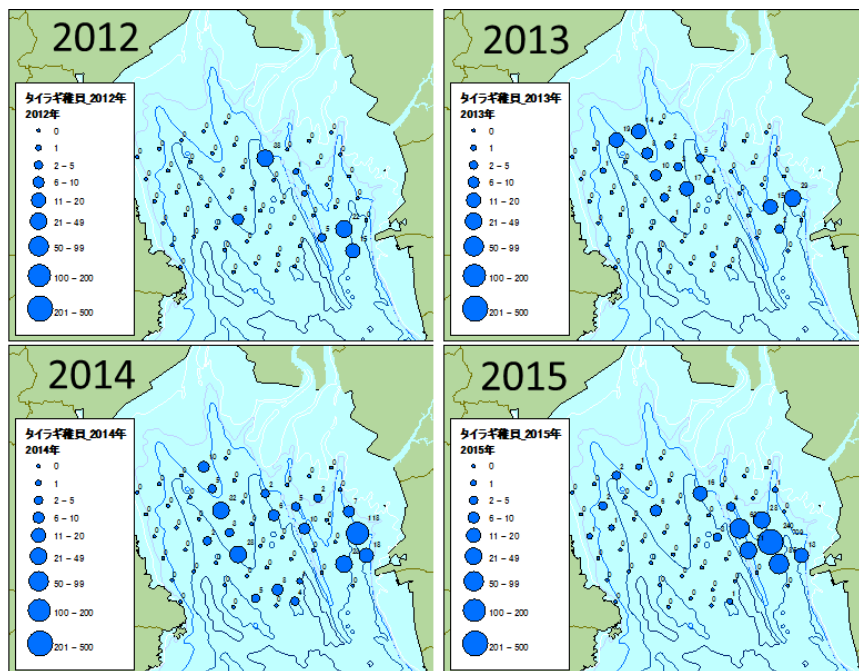
出典：有明海漁場環境改善連絡協議会（2016）「第 22 回有明海漁場環境改善連絡協議会資料」



注) 図中に表示されている数値は、調査期間内（2015年10～12月）に確認された着底稚貝の総個体数（個体数/m²）を示す。

図 16 アサリ着底稚貝の分布状況（2015年10～12月の累計）

出典：有明海漁場環境改善連絡協議会（2016）「第22回有明海漁場環境改善連絡協議会資料」



注) 凡例において、nd (1 個体以下/100m²) は 0 と表示した。

図 17 タイラギ稚貝の分布の推移 (2012~2015 年)

出典：有明海・八代海等総合調査評価委員会(2017)「有明海・八代海等総合調査委員会報告
平成 29 年3月」

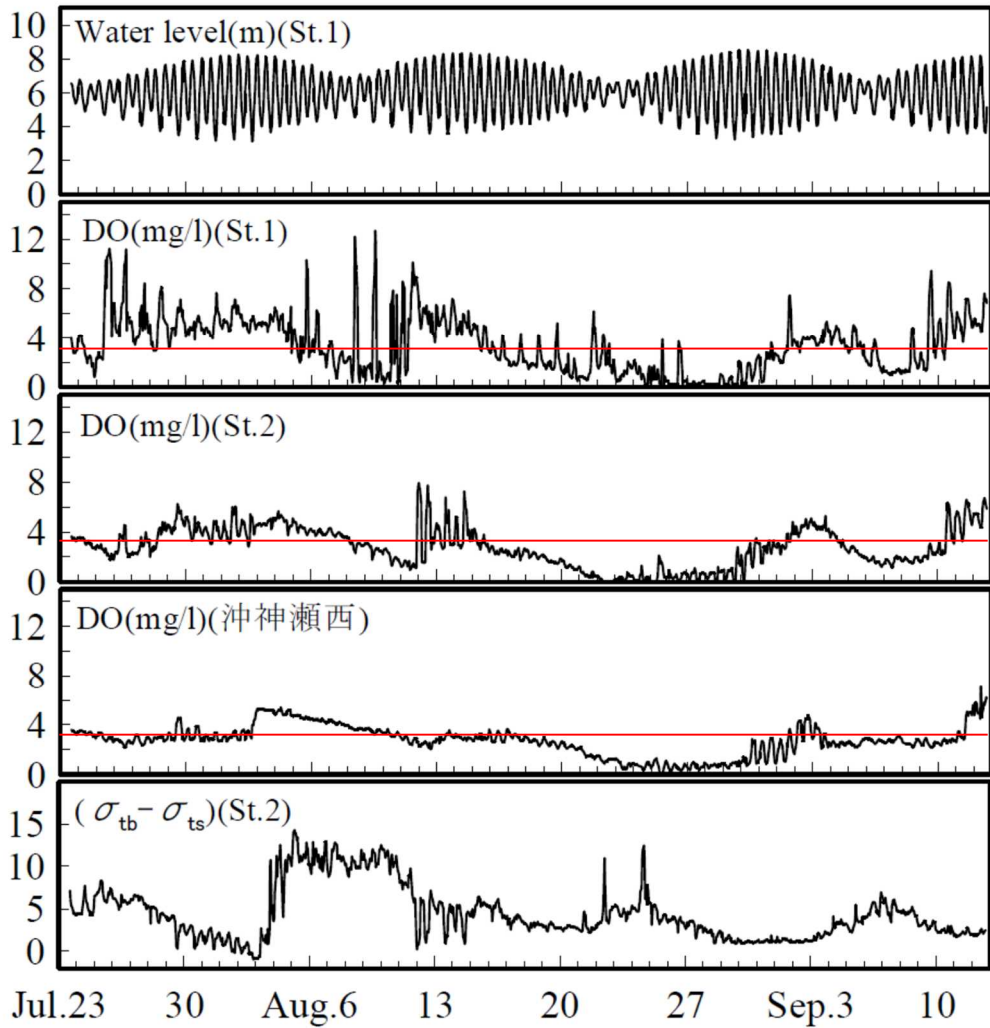
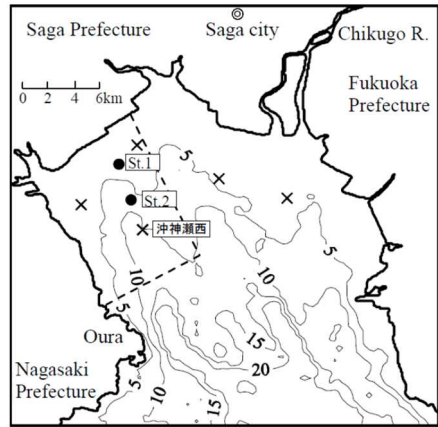


図 18 湾奥部の水位、底層DO等の経時変化 (2007年、海底上0.2m)

出典：石谷哲寛、瀬口昌洋、郡山益実 (2008) 有明海奥部西岸域における底層DOと鉛直拡散係数及び酸素消費率の関係、農業農村工学会全国大会講演要旨集(pp762~763)

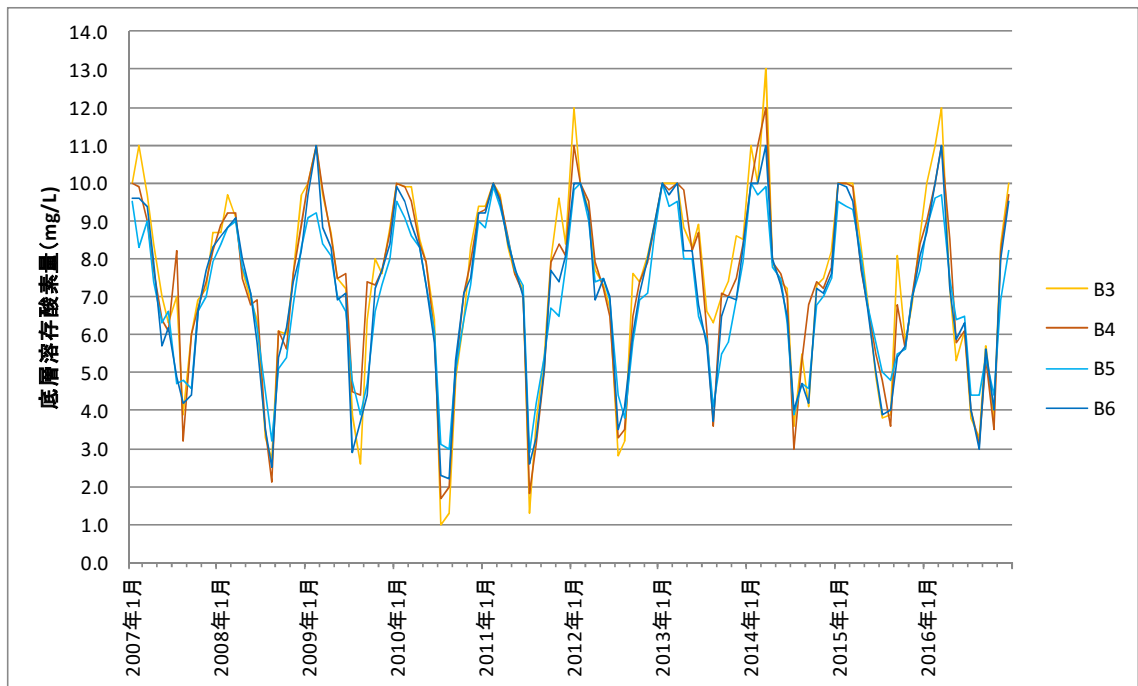
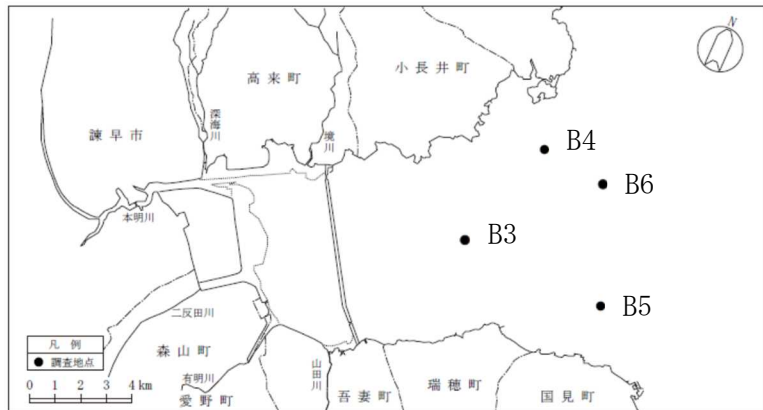


図 19(1) 底層DOの経年変化 (2007年~2016年、月1回調査、海底上1m)

出典：九州農政局 HP 諫早湾干拓事業環境モニタリングデータ等の公表について

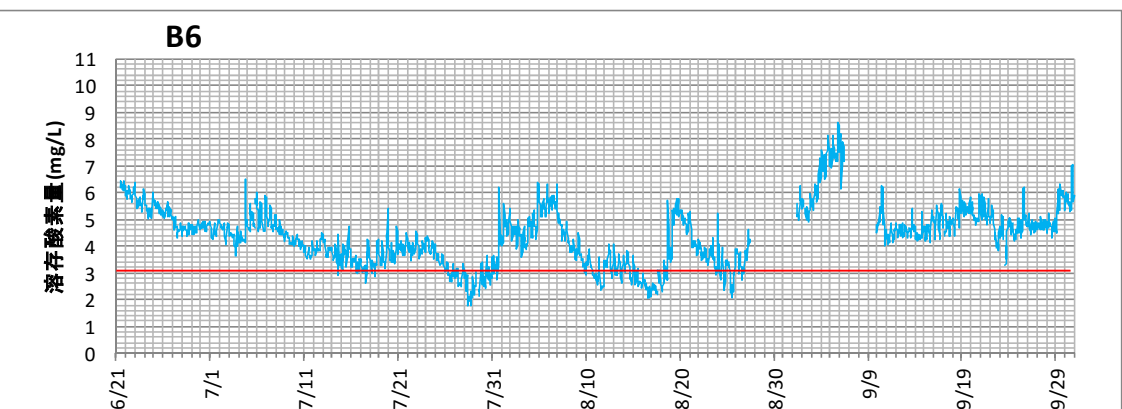
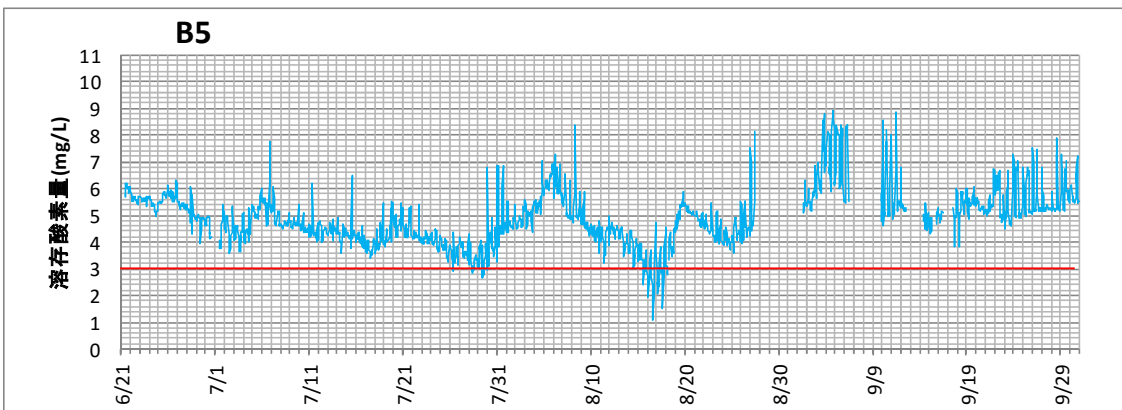
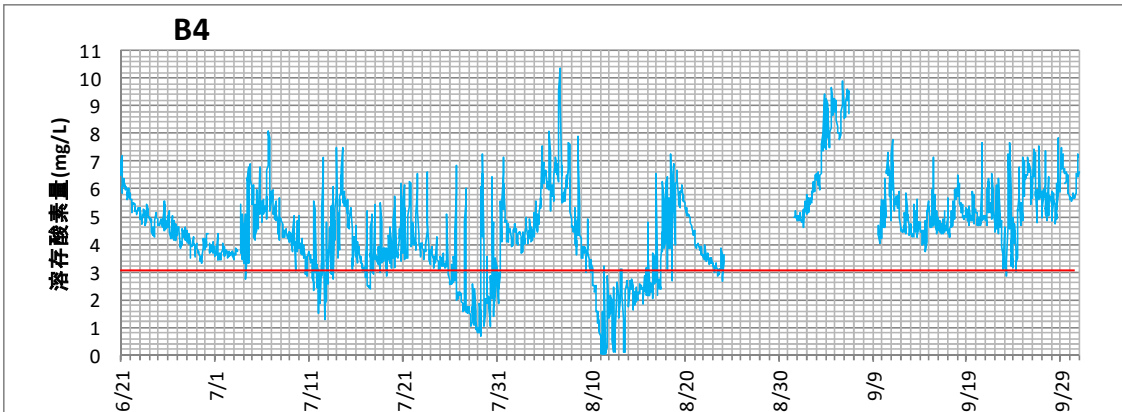
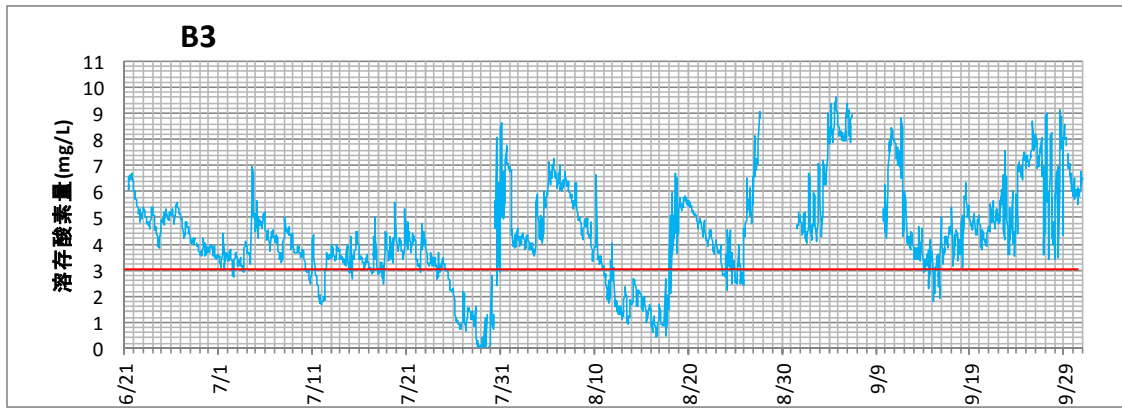


図 19(2) 底層DOの連続測定結果 (その1) (2004年、海底上1m)

出典：九州農政局 HP 諫早湾干拓事業環境モニタリングデータ等の公表について

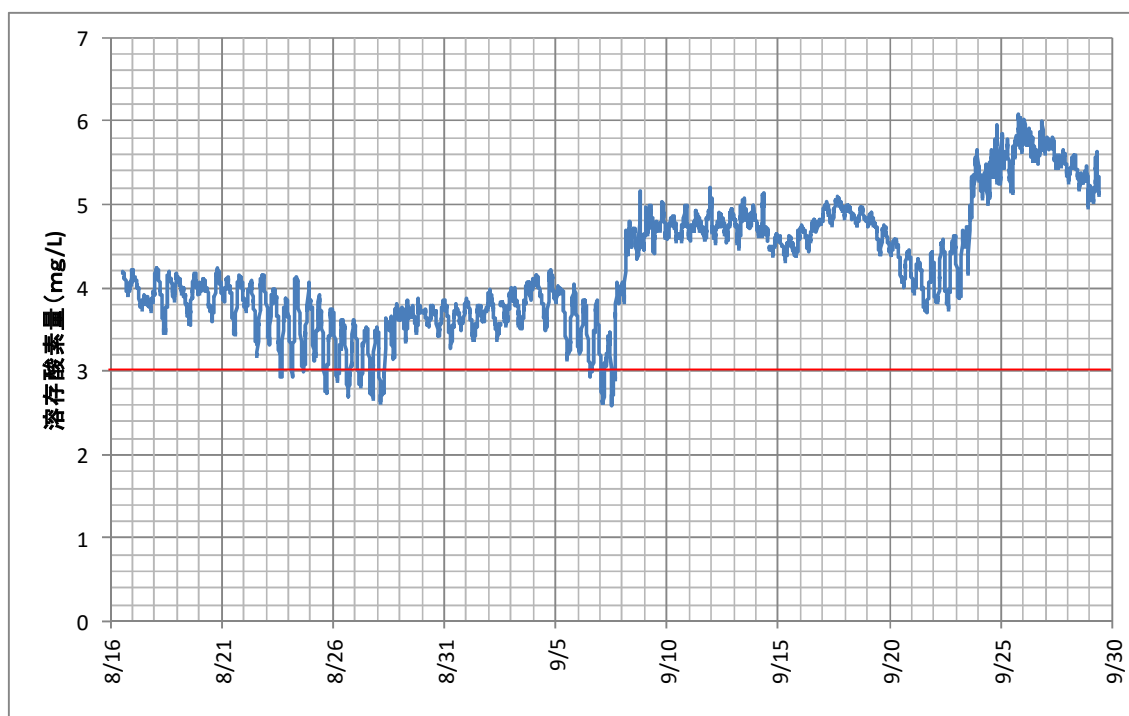
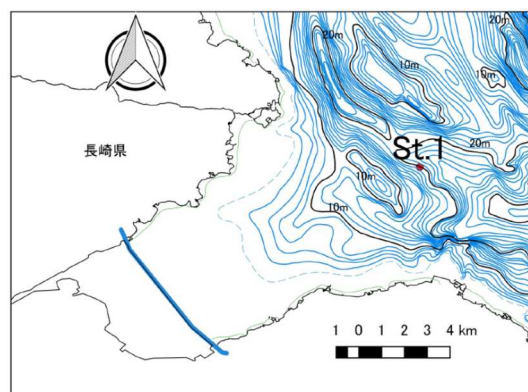
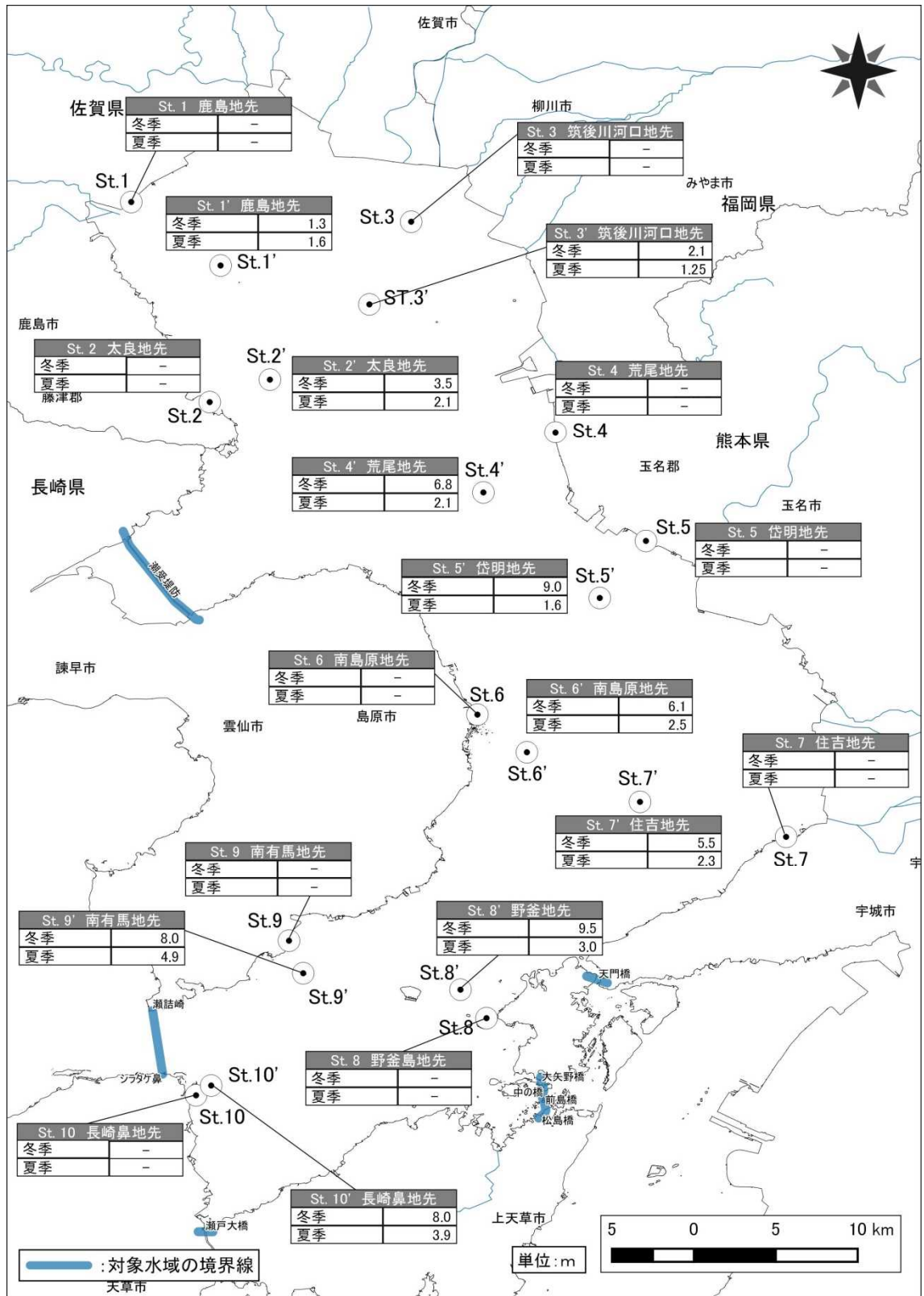


図 20 底層DOの連続測定結果（その2）（2010年、海底上0.2m）

出典：長崎大学水産学部、いであ株式会社(2011)平成22年度有明海生態系回復方策検討調査（生態系機能解明調査）業務報告書



※1)調査実施日：平成28年3月1～7日、7月25～31日

図21 透明度の分布（水質調査結果）